拡大特集号
東京土建一般労働組合
江東支部 QRコード

江東支部

土建しんぶん

墨田、江東、江戸川合同編集

東京土建一般労働組合
江東ブロック会議
江東区北砂１－１１－４
ＴＥＬ〔3640〕２４１１
発行者　茂呂裕一
定価　３０円
新聞代は組合費に含まれています

拡大だよ全群集合!!

組織強化で絶対実増

8月の活動者会議・出陣式を経て9月10日の第一次行動からスタートした秋の拡大月間は中盤をむかえ、各分会目標達成と実増をめざし日々邁進しています。支部目標205人到達に向け奮闘しましょう。

江戸川支部の書記長さんも一緒に踊ってくれました

全員参加型の 拡大出陣式

8月28日にティアラこうとうにて支部拡大出陣式を開催しました。

昨年からの試みとして分会ごとに決意表明をする際に、手作りのスローガンを作りコンテスト形式にして発表することで大きく盛り上がるようになりました。

分会それぞれが統一行動日前から日程を決めセンターに集まり、独自にアイディアを出し合い協力して取り組むことにより、早い段階で意思統一ができ、拡大成功に向けて大きな前進に繋がったのではないでしょうか。

今回のスローガンコンテストで特に記憶に残った分会は4砂分会です。

4砂分会はスローガンをいま流行のアイドルの曲に合わせて軽快♪に踊りながら発表し、見事優秀賞を獲得していました。

仲間を増やす運動を大きく拡げていくには皆さんの協力が必要です。

月間成功に向け基本方針である①行動参加者を確保し「仲間が集まる」取り組みで行動を盛り上げよう②組合員訪問を基本に対話活動（仲間のつながり強化）をすすめよう③事業所への働きかけ・結びつき強化を実践し、10月終盤の打ち上げには新しい仲間と楽しくお酒が飲めるように団結して頑張りましょう。

活発な交流を 行なった活動者会議

平成26年8月24日(日)江東支部会館に於いて活動者会議が開催されました。

午前の部は本部常任中執山本さんの講演、江東支部書記長茂呂さんの基調報告が行なわれました。

午後の部は第1～第8分散会に会場移動しそれぞれのテーマについて意見や討議が交わされました。

今回初めて参加した東砂分会の木場裕二さん（塗装工）にお話を聞くことが出来たので載せたいと思います。「山本さんの講演はとても良く勉強になりました。

ただ政治の話は重要ですが、組合や仕事についての話にもう少し時間を割いてもらってもよかったかなと感じました。

分散会は若手が集まる第2に参加し『若い人が集まる組合になる為には?』のテーマで話しました。

若い人の組合費をもう少し考えてみてはどうか、交流の場をもっともっと増やしたほうがいいのではないかなど緊張しましたが、自分の意見を述べる事が出来ました。

「参加できてとても良かったと思います。」との感想をお聞きすることが出来ました。

【東砂 山田義友】

実増を勝ちとるぞー！！

達成に向けて決意に満ちた役員一同

地域の歴史とともに

突然ですが皆さん、砂村新左衛門さんをご存知でしょうか?

江東支部会館前の清州橋通り南側の南砂全域と、東砂八丁目を埋め立て開拓した人です。

富賀岡八幡宮の境内に地元有志に依って建てられた砂村新左衛門顕彰碑という石碑があり、由来には私たちが住む砂町の基礎を築いた偉大な開拓者と刻まれています。

砂村新田から砂村、砂町と地名も変わり南砂、東砂になりました。三百五十年もの歴史ある砂村新田のほぼ真ん中に南砂分会はあります。

今ここで暮らせているのは新左衛門さんの御陰でもあるのです。

この歴史を大切に守りながら地域活性に役立つ活動を目指して、秋の拡大月間に望みたいと思っています。

支部拡大出陣式のスローガンコンテストで、優秀賞三分会の中に南砂分会が入りました。

賞品も戴けるという話で次の分会出陣式にみんなで喜びました。

これを弾みにして月間も乗り切ろうね。

写真は分会出陣式の分会長「みんないくぞ!!おー」です。

【南砂 小池三好】

笑顔でガンバロー

2014年 秋の拡大目標＆実績表

分会	目標	成果	分会	目標	成果
亀戸	12	2	深北	11	0
大島	18	4	深中	13	1
小名木	15	0	深３	7	1
砂中	17	7	深７	15	1
４砂	6	2	事業所	24	4
東砂	29	3	直属	22	6
南砂	16	4	月間合計	205	35

2014年9月24日時点

あけび

喜ぶべきか「長寿国世界一」の称号をもらった日本。男81女86の寿命の文字通り、〝人生80年〟の到来だ。

◆喜ぶのは未だ早い。老人の就業率（労働人口比）先進8か国中ダントツ一位。「働け働け！女も年寄りも」安倍首相の蛮声は鳴り響く。〝寝たきり老人〟の珍語発信にも世界は驚いた。廻りの「敬老」の心遣いに浸る余裕はなく歳を隠して働く。

◆長生きの秘訣はジョギングに代表される〝健康維持は自己責任で〟という涙ぐましい努力にあるようだ。近所の遊歩道はジョギング軍団で一杯だ。初老の短パン姿の主婦は「毎日朝晩歩いて腰痛を治したの。風邪も引かなくなったし、保険証が無いから、絶対病気にはなれません」となみだが出そうで返答に窮した。

◆長寿のもう一つの理由は医療の進歩と、国民皆保険制度だ。土建国保の先導的役割は高い。だが安心は禁物。米国のＴＰＰ交渉の強行を許せば日本の保険、医療は米国に乗っ取られる危険がある。

◆高齢者の知恵と経験は尊い。高齢者増加を理由に老人切捨て、福祉大削減は絶対許せない。多彩な人生後半を過ごすために老人は決起する。（杉）

石巻市 開成 仮設団地で 住宅デーを開催

今年で三回目となる石巻市での住宅デーに総勢17名の参加で取り組まれました。始めたきっかけは建設労働組合として何か出来ないか、から募金活動をおこなっていましたが、実際現地に「行って」「見て」「知る」ことが大切ではないかと思い立ったのがスタートです。耐久年数が二年と言われている仮設住宅をいまだ出ることも出来ずに住んでいらっしゃる方がいます。その人たちへ微力ながらも楽しいひと時を過ごしてもらえるように取り組みました。

9月14日(日)に宮城県石巻市開成仮設団地において、今年で三回目の住宅デーを開催しました。『包丁研ぎ』『木工教室』『食べ物』を取り組み、多くの来場者で盛り上がりました。

前日の13日には宮城県の石巻から野蒜(のびる)を通って松島まで現地を見学し、津波によりほぼ全域が被害にあった野蒜の町並みは昨日と全く変わっておらず、崩れた堤防や曲がったままのガードレール、一階の壁が無くなっている家屋など三年半が経った今でもなかなか復興が進まない事を実感しました。

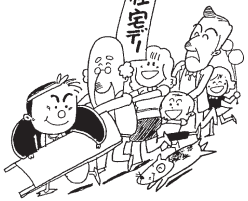
石巻市では海岸線の地帯も建物はほとんどなく、雑草が生い茂るだけでした。

そして迎えた住宅デー当日は会場を二カ所に分けておこないました。自治会長さんのご尽力もあり、設営と運営はとてもスムーズに進み、秋晴れの下、開始時間前から人が並び住宅デーがスタートした。10時半から13時まで短い時間でしたが、石巻の人たちと交流を深めることができました。

かないほどの大盛況ぶり。包丁研ぎや木工教室も開始当初は受付をまとめるのに大変でしたが、そこは長年住宅デーを開催している江東支部。経験がものをいってうまくまとめることができました。

包丁研ぎ

包丁76本、はさみ3本、初参加の兼久さんと大勝書記は初めての包丁研ぎでしたが、先輩の指導できれいに研ぐことができました。アナゴ用の本格的な包丁を持ってくる人もいて大好評でした。



砂中 大庭さん

団長は突然に…

とある書記に絶大な人気を誇る砂町中央分会の大庭さん。今回で二度目の参加でしたが、なぜか行きのバス車内で団長に指名。最初は「副委員長や常任を差し置いてそんなことは出来ないよ」と言っていましたが徐々にその気になりつつあります。バスの点呼や木工教室でのあいさつと説明などに小さい体で大奮闘。最後の現地の方へのあいさつは名越副委員長に譲りましたが、最後までみんなをまとめようと頑張る姿に大庭さんの大きさが垣間見えました。

食べ物

フランクフルト200本と焼きおにぎり200個準備したのですが、あっという間になくなるほど大盛況。後継者対策部と青年部でタッグを組んで取り組みました。

木工教室

万能台(大)を30個作成。皆さん苦労しながらも楽しく作ることが出来ました。中には今までイベントに参加したことがない若い二人も参加。楽しかったと大満足でした。

8月27日支部会館にて木工教室の工作キット作成をしてくれたのは、喜楽会の仲間たち。ボランティアにもかかわらず、汗だくになりながら思いを込めて真剣に作ってくれました。ありがとうございます!

参加された皆さん (敬称略)

名越　秀和	(南　砂)
長谷川昭二	(大　島)
佐野　幸弘	(大　島)
大庭　弘	(砂町中央)
兼久　俊三	(砂町中央)
野田　智文	(砂町中央)
松丸　圭司	(砂町中央)
中谷登志夫	(深川北)
鈴木　力	(深川北)
鈴木　光司	(深川北)
菊地　喜好	(深川北)
黒田　勝	(深川北)
宮島　将士	(深川第7)
村瀬健一郎	(書記局)
大勝　友二	(書記局)
辻　義孝	(書記局)
実川　英治	(書記局)

職人魂は深北魂

深北 中谷さん

前回今回と多くの参加があった深北分会。中心人物は昨年まで支部の常任として活動していた中谷さん。チーム深北自研さや木工教室なんでも任せられる職人魂で魅力満載。

初参加 頼れる存在

大島 佐野さん

今回初参加の大島佐野さん。「いい経験をさせてもらって大変勉強になりました。」と感想をいただきました。担当していたのは木工教室。若い人二人を丁寧に教えていました。頼れる存在として大活躍!!

MVP級の大活躍

砂中 野田さん

後継者部長の野田さんは昨年に続き仕事終わりに青年部を引き連れ、東京から車で石巻まで。本当にお疲れ様でした。食べ物を担当しフランク200本を焼き切り、さらには木工教室にも顔を出してくれた二年連続MVP級の大活躍です。

三年連続参加スペシャリスト

南砂 名越さん

三年連続三回目の参加は大島の長谷川さん、村瀬書記、そして南砂の名越さん。昨年は団長今年は名誉団長として大庭さんの補佐をしていました。任務は木工教室の受付。上手くまとめてくれました。司会と受付のスペシャリストとしての地位を固めることができました。

深7分会

神奈川バスレクへ

9月7日の曇天に横須賀・城ケ島の拡大バスレクを楽しみました。戦艦三笠のZ旗が「土建の興廃この拡大にあり各員一層、奮励努力せよ」と高らかになびいていました。

城ケ島灯台は、1648年と言う古い歴史を持ち、浦賀への入船にとって大事な道標でした。

浦賀は干鰯で栄え、19世紀になって深川にその干鰯の中心は奪われました。

昼食はマホロバマインズ三浦で、ゆっくりくつろぎ温泉も楽しみました。【深7　中尾正文】

記念艦「三笠」の前で

数独 スードク

3								5
	2			9	4		6	8
		5		1				
			2			1	7	
	9			7			3	
	6	1			5			
				3		9		
9	5		1	6			8	
4								3

二重枠（2つあります）に入った数字の合計はいくつになるでしょう。

ルール

① 空いているマスに、1から9までの数字のどれかを入れます。

② タテ列（9列あります）、ヨコ列（9列あります）、太線で囲まれた3×3のブロック（それぞれ9マスあるブロックが9つあります）のどれにも1から9までの数字が1ずつ入ります。

平和をめざして

伝えていく事

加藤書記

今回、代表として広島原水禁世界大会へ始めての参加をさせて頂きました。東京土建へ入職しまだ1ヶ月目でこのような場への参加をさせて頂き感謝しております。

日本全国で活動している方達の報告や、世界各国での原爆禁止運動を行っている方の報告などを拝聴し、人類にとってあってはならない原爆に対し色々な方達が核兵器廃絶の為に、活動している事を知り大変参考になりました。

分散会では、当時を生き抜いてきた方達のとても鮮明に当時の状況をお聞きする事が出来ました。

普段の生活をしている中でその様なお話を聞く機会など恐らく無いであろう当時の詳しい状況として、原爆を落とされる前の戦時中どの様に生活をしていたか、正に原爆が落とされる瞬間に何が起こったか、そして投下後に今までの日常がどの様に壊れてしまったか、そして、その後の生きる上での苦悩などをお聞きする事が出来ました。

当時を生きてきた方が実際に見て聞いてきた事をお聞きする事ができ、いかに原爆が人類にとって危険なものかを今後後世に伝えていかなければならないと改めて感じました。今回の経験は非常に勉強する事が多くまた、改めて原爆が人類にとって有害で危険なものかを知り私自身の今後の活動に繋げていこうと思いました。

※都合により今月号に掲載させていただきました。

求人

☆㈱コタカ／代表者：小松忠孝／中央区京橋1―1―1八重洲ダイビルB／☎03（3231）5858／FAX03（3231）2212／溶接工・1～2人／社員／野于場／条件：経験者・資格・普免

☆㈱キダマーブル／代表者：木田和弘／江東区東陽5―21―5／☎03（5665）1114／FAX03（5665）1414／現場管理／条件：不問

☆㈱大槻板金／代表者：大槻星一／江東区東砂3―18―11／☎03（3649）2390／板金工・若干名／社員・見習い／町場・野于場・新于場／条件：不問

私たち労働者にとって、なんとなく「敵」と位置付けている「三井」「三菱」の話をします。「三井」「三菱」は、敗戦時、財閥解体の代表だったので、イコール「資本家」と認識されています。戦後70年経たないうちに、解体の象徴だった「持ち株会社」を復活させてしまった。

事業をしないで、つまり労働させて利益を搾取する仕組みを株式投資以外に、戦前同様、会社支配と言う形を可能にしてしまったことは、労働側としては、直接交渉できない親会社の支配を二重に受ける事をゆるしてしまっている。特に、ホールディングの役員は、資本側の意識があり、資本に最も都合よく使われている意識が欠如している。その分厄介な「層」です。

さて、「三井」「三菱」の話に戻ろう。三井は、伊勢松坂の出（家祖・高利ニ元禄7年73歳で逝去）と言われ、幕末から維新にかけて三井の窮状を救った大番頭が三野村利左衛門である。現在も清澄二丁目に三野村合資会社の本社があり、戦前の社屋が残っている。利左衛門逝去（1877）以降明治中期からは、利左衛門の養子利助が、活躍する。

清澄一帯は、三井村であり、今も三井倉庫が沢山点在している。

そんな明治初期（1878）三井は、利左衛門が死んで、混乱していたであろう時に、三菱弥太郎が荒廃している清澄庭園を政府から購入した。正に三井村への殴り込みであった。西南戦争でぼろ儲けをしたグッドタイミングであった。

弥太郎は、お上からの儲けをお上に還すとの意識も持っていたであろうと思われるが、社員の慰安と賓客接待の「深川親睦園」として整備した。弥太郎は「自然石」に憧憬が深かったので、取引先含めて多くの関係者が、全国の「名石」を贈った。今の庭園に立派な庭石が沢山あるのは、このような経緯からです。

人の三井、組織の三菱と言われるが、競争は、戦国の世においても同様、我を張らず、「堪へ難キヲ堪へ忍ビ難キヲ忍ビ以テ」後で何とかなるとした方が、歴史的に生き残ると言えそうである。組織は滅びても作り直せるが、人の再生は、その人の次世代と言うことになり、人生二度と生きられない辛さを感じます。

十八大通【じゅうはちだいつう】は、文政時代の多くの「札差」を象徴します。

我ら江東　第2弾

十八大通（第9回）

深7分会　中尾正文

「数独」の解答

9＋2で、答えは「11」

3	4	9	8	2	6	7	1	5
1	2	7	5	9	4	3	6	8
6	8	5	7	1	3	2	4	⑨
5	3	4	2	8	9	1	7	6
8	9	2	6	7	1	5	3	4
7	6	1	3	4	5	8	9	2
②	7	6	4	3	8	9	5	1
9	5	3	1	6	2	4	8	7
4	1	8	9	5	7	6	2	3